

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成23年度農作物病害虫発生予察情報について

平成23年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

平成23年度農作物病害虫発生予報第3号

平成23年5月30日
徳島県

・普通作物

早期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が0.7%、発病度が0.02)。また、補植用置き苗での発生も認めなかった(過去10年間の発病率：平成13～15年は未確認、平成16年は4.8%、平成17～22年は未確認)。
- (2) 5月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は多い確率50%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

普通期水稻

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%、発病度が0.1)。また、補植用置き苗での発生も認めなかった(過去10年間の発病率：平成13～22年は未確認)。
- (2) 5月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は多い確率50%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。

- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は25.0%でほぼ平年(20.0%)並であり、25株当たり成虫数も0.5頭と平年(0.6頭)並である。
- (2) 5月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は多い確率50%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予測されており、発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 根腐しやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け根を健全に保つ。

サツマイモ

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が91.7%、寄生株率が37.3%であり、平年(51.6%、10.0%)と比べて発生が多い(過去10年で一番多い)。
- (2) 5月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は多い確率50%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予測されており、発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

イモキバガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、寄生株率が0.5%であり、平年(12.3%、0.2%)並である。
- (2) 5月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は多い確率50%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予測されており、発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 通常の発生であれば、特に防除は必要ない。多発した場合には、食葉性害虫等の防除に併せて薬剤を散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生葉率が0.5%であり、平年(25.9%、5.1%)並である。
- (2) 5月27日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は多い確率50%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予測されており、発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

果樹

カンキツ

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年より遅い(前年より早い)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生は5月19日に初確認された(平年：5月15日, 前年：5月21日)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は, IGR剤の場合には発生確認の10~15日後, 有機リン剤の場合には35~40日後の時期である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では, 発生圃場率は60.0%で平年(39.3%)よりやや高く, 寄生葉率も9.2%で平年(5.3%)と比べてやや高い。

(2) 5月27日発表の1ヶ月予報では, 気温は平年並または高い確率ともに40%, 降水量は多い確率50%, 日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予測されており, 発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 充分量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので, 同一系統薬剤の連用を避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年より遅い(前年より遅い)

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 今春の予察灯調査において, 上板町では平年(4月23日)より遅い5月7日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。

(2) 5月27日発表の1ヶ月予報では, 気温は平年並または高い確率ともに40%, 降水量は多い確率50%, 日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予測されており, 発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹カメムシ類が多発する年は, 幼果期にあるカンキツ類はもとより, 間もなく収穫期を迎えるウメ等への被害も大きいので, 防除を励行する。

(2) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので, 園内を巡回し飛来に注意するとともに, 飛来を認めたら早急に防除を行なう。

(3) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。

(4) 移動性が大きいので, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

[ツヤアオカメムシの予察灯への誘殺数]

月半旬	浦 田 町					上 板 町				
	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年
5.1	0	12	5	5	34	0	23	6	4	51
5.2	2	57	42	8	86	10	70	21	2	87
5.3	59	6	130	1	50	7	0	32	0	82
5.4	25	381	51	8	122	3	138	35	5	56
5.5	6	126	9	56	87	3	81	36	8	52
5.6		10	60	28	112		1	17	3	20
6.1		33	28	8	80		14	9	3	17

[チャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年	2011年	2010年	2009年	2008年	平 年
5.1	0	2	0	11	11	0	1	3	5	21
5.2	3	10	17	1	49	12	6	46	3	48
5.3	8	0	33	0	24	11	0	86	0	44
5.4	0	61	12	1	47	5	13	11	5	18
5.5	0	124	3	5	65	5	17	4	8	21
5.6		3	5	3	49		1	4	2	10
6.1		47	5	2	23		1	5	2	22

・野菜

夏ネギ

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では,発生圃場率は100%であり,平年(65.3%)より高いが,葉の被害度は1.6で,平年(6.3)より低めである。
- (2) 5月27日発表の1ヶ月予報では,気温は平年並または高い確率ともに40%,降水量は多い確率50%,日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予測されており,発生に中立的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し,被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので,絶対に圃場周辺に野積み・放置せず,速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く,特に5~6月が少雨の年に多発し,残暑が続くと秋口にも発生が多くなる。

・その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し,周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは,7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度: 甚>多>中>少>無

発生量: 多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujyosyo/>

病害虫の発生予察情報,発生状況,防除法等をお知らせしています。